

## ①前回資料7 ○地域づくり計画のあり方

## ○目指す姿 《丹波市総合計画と地域づくり計画がリンクする(同じ目標に向かう)》

- 市と地域とが一緒に(両輪)となって市の重要課題に取り組む。
- 自治協議会と自治会が、地域の目指す姿・目標を共有する。
- 参画と協働の理念のもと、誰もが構成員として参画できる計画づくり。
- 地域のニーズを把握し、地域特有の課題解決に取り組む。
- 審議会等の委員が公募や地域推薦の場合は、さまざまな団体からの委員選出となる。

## 【対策】

- ・総合計画と地域づくり計画との明確な位置づけを図る
- ・市や関連団体の各種委員の見直し(公募など)と地域における会長対応の明確化 など



- ・地域づくり計画は、地域の方針を決めることができるとされているが、住民総意で作成された地域の方針が、総合計画に反映できるとは限らない。
- ・総合計画では、リーディングプロジェクト(第一次)、基本姿勢(第二次)として、「参画と協働」を施策の重要な柱として押さえ、コミュニティ組織の育成・強化を始め、市民参画及び協働の仕組みの構築等が掲げられているが、総合計画から協働のパートナーである自治協議会の地域づくり計画と連携する仕組みがない。

## ○現 状

- ・施策としての地域づくり計画の位置づけが明確でない。
- ・総合計画とは無関係の状態となっている。
- ・自治基本条例において、自治協議会に地域を代表する形式的正当性を持たせながら、市の主要施策を策定する審議会等の場において、自治協議会の代表者の参加を求めていない。(地域代表は自治会長会)

## ○現状のまま対策をしない場合

- ・市の施策と地域の活動が一致しなくなる。
- ・地域の目標がなく、一体感がなくなる。
- ・自治会長への充て職による負担が増す。
- ・昼間の会議が多く、現役世代が自治会長になることが困難である。